

雨のソウル旅行—①

(2018年5月15～19日)

関根 茂子

昨年は、北朝鮮情勢が不穏なので、例年のS姉主催の韓国山旅は計画されなかった。今年は南北融和のさざしがあり、5月15～19日の旅に誘われる。

今回の第1の目的は「浅川巧(たくみ)」のお墓に行く、次にソウルの雲岳山に登ること、さらに江華島の小さい山を歩くこととおおまかの計画が示された。

「浅川巧」って何者？ 出かける前にネットで検索すると、ソウルナビではページ下の囲みの如し

浅川巧の生涯を描いた日韓共同制作の映画『道～白磁の人～』(2012年公開)を見たS姉や前回の山旅でいっしょだったK姉、M子は次回の韓国山旅で浅川巧のお墓に行ってみたくと話し合っていたようだ。

そこで、付け焼刃ではあるが、映画の原作：江宮隆之『白磁の人』の改訂版『冬萌の朝一新・白磁の人』を読み、さらに、高崎宗司『朝鮮の土となった日本人浅川巧の生涯』も読んで、登山予定の雲岳山(ウンギル山)610mの情報もネットで入手して準備を整える。参加者は韓国語が操れるS姉、ハングル勉強中のTさんと私の3人。現地では文盲状態の私は事前調査ぐらいしか役に立てないのだ。

出発直前にソウルの天気予報をチェック。到着日だけ晴、その後の4日間はすべて雨、それも90%とは最悪の予報だ。雨天の登山は事故の元。博物館めぐりにしよう、ソウルの博物館をネットで調べた。

国立民俗博物館も国立中央博物館も、ラッキーというか「世界博物館の日」記念により、5月11日(金)～20日(日)は無料入場とある。2つの博物館を各1日ずつまわって、1日は韓国人の共同墓地に浅川巧ただ一人眠る忘憂里(マンウリ)公園墓地に行けばいいだろうと勝手に決めたのだ。

■5月15日(火) 晴

成田1320発のアシアナ航空は1時間以上も遅れて飛び立ち、仁川着18時前。空港案内所の日本語を話せる案内嬢にホテルからの迎えの車の手配電話をかけてもらい、車が来るまでに現地共同資金に1万円を両替(約10万₩[1ウォン≒0.1円])、事前に航空券とホテル4泊代41,300円と合わせ5万円強の旅が始まった。

常宿の仁川スカイホテルまでは車で10分、ベッドはシングルとダブルの2つでシャワー室だけだ。機内で遅い昼食が出たので、夕食は涼麺(6500₩)で軽く済ませ、ホテルで明日の行き先を検討。明日から2連泊の宿から歩いても行かれる景福宮(キョンボックン)に併設の国立民俗博物館で相談がまとまる。

■5月16日(水) 小雨曇後雷雨

8:00スカイホテルから仁川空港に送ってもらい、まずは、今宵の宿アットホームがある鍾路5街(チョンノオガ)まで地下鉄で移動するのだ。

ソウルの電車は無人化、切符は事前入金のカード式、デポジット料金500₩は後で精算機に入れれば返金される。改札口の装置にカードをタッチして、入口の回転バーを体で押し入出場する。ソウル市営地下鉄は路線が色分け、駅に番号がふられている。路線図をよく下調べして、乗換通路の数字と色を追って進めば行きつける仕組みだ。音楽で乗換駅到着を知らせてくれるのもありがたい。

ホテルのある鍾路5街(チョンノオガ)駅で手持ちのカードをタッチしても出口のガードが開かない。係員はどこにもいなく2枚のカードを手にして途方にくれる私たち。と、年配のおじさんが出口ゲート横の機械にカードをタッチ、ヘルプ通路が開いて出られ助かった。駅近くにあるはずのホテルが見つからず、地図を示して道を尋ねると誰もがスマホで電話をかけ

◆浅川巧とはどんな人？… 1891(明治24年)、山梨県で生まれ、1914(大正3)年、23歳で日本統治下の朝鮮に渡ります。朝鮮では林業技師として緑化事業につとめながら、兄である伯教(のりたか)の影響もあって朝鮮工芸の美に魅了され、「朝鮮白磁」をはじめとする工芸品や民芸品の収集や研究を行い、日本に紹介しました。また兄や朝鮮の芸術を愛した美学者の柳宗悦と共に景福宮内に「朝鮮民族美術館」を設立、朝鮮陶磁器や家具の収集と保全に尽力しました。この美術館は現在も同じ景福宮の中にある国立民俗博物館に引き継がれています。浅川巧は私生活でも現地のことを深く理解しようと日本統治下にありながら朝鮮語を学び、韓服を着て、現地の風俗や人に親しみ、周囲の人から敬愛されたそう。1931(昭和6)年、病気のため40歳という若さでこの世を去りましたが、生涯を朝鮮に尽くし、「韓国人の心の中に生きた」日本人として韓国でも知られています。そんな浅川巧の人生は2012年、映画「道～白磁の人～」として映画化されました。

(ソウルナビから)

てくれ実に親切だ。何人もの韓国人の手助けでやっと目指すホテルに到着できた。

この宿は日本語が通じるから安心だ。不要の荷を預けて、小雨降る中、空港で入手したソウル公式観光ガイドブックを手に11:00景福宮へ向かう。

地下に1号線が走っている大通りを西に歩き、宗廟(チョンミョ)広場公園を過ぎると金の装飾品を扱う店が立ち並び鍾路3街(チョンノサムガ)だ。ついでタブコル公園(1919年3月1日に独立宣言文を読み上げた歴史的な場所)がでてきた。

11:40光化門(クァンファムン)広場に着くころには、雨は小止み状態、北に折れると、李舜臣(イ・スンシン) 将軍=秀吉の朝鮮侵略の危機を救った救国の英雄の巨大な銅像に圧倒される。さらに世宗(セジョン) 大王の像まで歩いて光化門の近くにくると、雷鳴が聞こえ大粒の雨が降り出した。あわてて、通りの向こうの光化門に逃げ込む。雨宿りの大勢の人の中にはきれいなチマチョゴリに身を包んだ観光客も交じていた。1時間以上降りこめられているうちに、残っているのは数人、私たちも景福宮入口に傘をさして行くと国立民俗博物館の入口は別だった。左のバス駐車場の先、三清路(サムチョンロ)を北上して博物館入口にたどりつく。庭園を巡り朝鮮古民家の縁先に腰を下ろしてひと休み後、本館建物に入る。日本語案内は15時から1時間というので、喫茶室で時間待ち後、男性係員のガイドで第3展示室の朝鮮時代の貴族階級・両班(ヤンバン)の一生の展示を見て回る。韓国時代劇に出てくる王様、貴族の服の色が階級を表している、丸は太陽で王様、四角は大地で臣下の印、文官は鶴、武官は虎の模様とか興味深い話が聞けた。

残りの展示室を回って17時過ぎに退館、同じ道に戻るのとはつまらないと、三清路を渡って東へ進む。韓国風民家を改造した飲食店やギャラリーがある起伏のある歩道を、適当に歩いていく。昌徳宮(チャンドクン)の通りに入る鍾路3街の貴金属通りを左折、18:00無事にホテル帰着。

■5月17日(木) 雨

目覚めるとやはり雨だった。朝食は11階で無料提供



国宝の半跏思惟像
(トリップアドバイザーから)

のパンとコーヒーと牛乳、ヨーグルトで済ます。

8:30さて、ロビーに下りると、雨が激しくなり、S姉は雨具上下を私はスパッツを取りに部屋へ戻る。

9:00過ぎ国立中央博物館の最寄りの二村(イチヨン) 駅に到着、10:00開館と同時に入館すると日本語ガイドの女性が待っていた。不要の荷物をロッカーに預け展示館入場前に手荷物検査を受ける。

まず吹き抜けの三階まで聳える十層の石塔が目を引く。ガイドは黄金に輝く「新羅金冠」や9メートル

を越える「野外儀式用仏画」など見どころの展示物を要領よく案内してくれる。なかでも広隆寺や中宮寺にある有名な弥勒菩薩半跏像にそっくりの国宝の半跏思惟像は見事だった。あっという間に一時間が過ぎ、後は私たちだけで見て回るようになった。

3階の喫茶室(コーヒー 4000₩)でひといき入れ、まだ見ていない展示室を覗きしていると、会話を聞きつけた日本人ボランティアガイドの声がかかる。彼女の案内で新安海底文化財室を再度見学、鎌倉末期に東福寺が仕立てた交易船が新安海で沈没、粘土質の浅い海に積荷の景德鎮をはじめ各地の焼き物や銅銭が大量に埋もれていた。引き揚げられた品々がここに展示されていたのだった。日本室には皇族に列せられた李王朝の末裔が蒐集した北斎の版画や有名日本人作家の絵画、彫刻が展示されていた。

最後に青磁や白磁の焼き物を覗きする。通勤ラッシュが始まる前にホテルに帰ろうと16時過ぎ外に出ると雨がまた降りだした。鍾路5街(チョンノオガ) 駅から大降りの雨の中を歩いて帰る。

博物館覗きも結構疲れるものだ。ひと休み後、夕食にと外出。地下鉄駅の大通りの向こう側に渡るとおいしいそうな匂いが漂うチヂミを焼いて食べさせる店が立ち並んでいる。海鮮チヂミ(ヘムルパジョン)1枚15000₩、アツアツでおいしかった。食後、奥に歩くと左手には魚類や乾物など商う市場があった。ウロウロしていると「何かお困り事がありますか」と若い女性に声をかけられる。ソウル市の日本語対応観光ガイド嬢だ。英語対応のガイド嬢の2人連れで見回っているとのことだった。

(続く)